

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

ふるせ しぜん ぶんか まも かい
古瀬の自然と文化を守る会

いばらきけん し
茨城県 つくばみらい市



講評

特定非営利活動法人 古瀬の自然と文化を守る会では、つくばみらい市寺畑地区において、これまで湿地で水利管理が難しく放置されていた水田を地区住民の有志で環境復元を始めた事をきっかけに設立され、農村の環境や文化、生態系を復元し、エコミュージアムとして後世に伝えていくことを目的に活動している。新興住宅地の自治会や葛飾区博物館、葛飾区教育委員会等と連携し、復元した湿地の水田を活用して、農業体験学習、野外体験学習を行っている。

特に葛飾区との交流では、子供たちによる「田んぼの学校」を通じて、葛飾田んぼ倶楽部ジュニアを立ち上げ、その活動を機会に、一般区民によるサポーター制を発足し、現在16名の区民が登録し、会員の生産している有機栽培米の販路にまで繋がっている。また、新興住宅地の自治会の希望で朝市を開催するなど、自然環境保全を契機とした交流が、地域経済の活性化や生産農家の意欲にまで波及している点が評価された。

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

しぜんたいけんきょういく
グリーンウッド自然体験教育センター

ながのけん やすおかむら
長野県 泰阜村

講評

農山村の風土で培われた独自の暮らしの知恵や文化など、地域の持つ潜在的な教育力を重視したプログラムにより、子供たちが助け合いや自立性について学び合うことを目的に活動している。

里山の自然や文化を活かした3泊～20泊程度の「山賊キャンプ」を実施し、この活動から魅力を感じた子供たちは、1年間の山村留学にチャレンジしている。

体験活動の講師は地域住民が務め、有給。また生鮮食材は村内もしくは近隣市で購入するなど、地元で経済利益が循環する仕組みを作るよう工夫している。また自然体験プログラム内には、森林作業を組み入れるなど、地域の環境保全にも配慮している。

本活動は20年を迎え、現在では年間1,300人以上が訪れている。また自然体験活動に従事している若者15名が村外から定住、本事業への関わりを契機に、グリーン・ツーリズム事業に取り組む農家グループが現れるなど、過疎化・高齢化の進む山村地域において、その貢献度の高い点が評価された。



オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会

すいしんきょうぎかい

えひめけん いまばりし
愛媛県 今治市

講評

平成12年のしまなみ海道の開通に伴い、しまなみ地域の豊かな地域資源を活用した体験交流などをビジネスとして進めることで地域の活性化を図ろうと、「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」を設立し、「企画運営会議」、「産直市連絡協議会」、「滞在型体験学習会議」、「体験学習連絡会議」の各部会を置いて、それぞれが連携して活動を行っている。

体験受け入れ等で学んだ経験とノウハウを活かし、加工活動等の起業を始める女性やグループが増加、さらには農家レストランの開業に発展する事例も多く見られている。

しまなみ地域が一丸となって「しまなみの良さ」をPRしてきた結果、産直市販売額は、平成12年度の約6,000万円から17年度には9,500万円に、体験交流人口も平成13年度495人から17年度には9,476人に増加するなど、島という不利な立地条件を逆に地域住民が資源として魅力を再認識し、広域で協力し合いながら元気に活性化している点が評価された。



ライフスタイル賞 講評

ライフスタイル賞は、I・Uターン等により農山漁村に定住し、個性を活かした魅力的な新しいライフスタイルを実践している方々について広くその生き方を紹介し、これから農山漁村に行ってみたく、住んでみたいと思う方への参考としてもらうことを目的としています。

受賞者については、今年度もそれぞれが熱い思いをもって独自性のあるライフスタイルを確立されており、選定に大変苦労しましたが、審査委員会では、4つの審査基準（*）をもとに、各審査委員の視点から様々な角度で審査を行いました。今年度は特に、「農山漁村を第2のライフスタイルの舞台として生き生きと楽しく生活していること」、「地域と密着した取組を行っていること」、「自身の明確なこだわりや目標を持って心身共に豊かな生活を実現していること」、「発想力とバイタリティで、リーダー的存在として地域に刺激を与え、波及効果を与えていること」等に着目して選定しました。

ライフスタイル賞に選ばれた方々の生き方が参考となり、今後、全国各地において、二地域居住や農山漁村へ定住する方々が増え、様々な形の新しいライフスタイルが生まれる事で、より一層、都市と農山漁村の共生・対流が推進されることを期待しています。

(*) ライフスタイル賞 審査基準

- ア 農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルを実践していること。
- イ 個性的で魅力のある活動であること。
- ウ 新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
- エ 新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

ライフスタイル賞

はっとり まさと
服部 政人

ほっかいどう つる いむら
北海道 鶴居村



講評

平成3年に会社を退職後、家族4人で大阪から北海道鶴居村に移住。標茶町育成牧場で臨時職員として勤務。その後、鶴居村酪農ヘルパー利用組合に正職員として採用され、平成11年に、農地を取得するとともに、阿寒連峰から湿原が見渡せる丘の上に、小動物のふれあい牧場とファームレストラン「ハートン・ツリー」を開店し、地元食材の牛乳にこだわった手作り料理を提供している。その後、都会では味わえないのんびりした時間を提供したいとファームインをオープン。農作業のサポートと田舎からのグローバルな情報発信を目的に、海外青年のホームステイも受け入れている。他に村内の酪農家と協力して、グリーン・ツーリズム組織「鶴居村あぐりねっとわーく」を立ち上げ、農業体験や農泊の企画・運営を進めるなど、地域に溶け込んだ新しいビジネスの展開や、外国人との交流による鶴居村の魅力発信など、第2のライフスタイルを精力的に満喫している点が評価された。

ライフスタイル賞

いのうえ ただし かず み
井上 義・和美

やまぐちけん ながと し
山口県 長門市



講評

「地に足の着いた生活がしたい」と脱サラ。外国での自給自足生活の経験や、自然の理に適った生活に触れた事から、「自分で欲しいものは、極力自分で作る」をモットーに、地域の年長者から昔ながらの知恵を教わり、創意工夫しながら合鴨農法による8種類の米作りや、完全無農薬・無化学肥料の野菜づくり等を行っている。また、百姓生活を多くの人に体験して欲しいと、築100年の民家を自力で改装し、1日1組限定の民宿「百姓庵」をオープン。平成17年には日曜限定のカフェも始め、主人自ら作った石窯で手作りピザを提供している。民宿やカフェはリピーターが増加し、中には定住する人も出てきている。客層も20～30代が大半を占め、若い人達が田舎暮らしや物づくりに興味を持つきっかけになっているなど、田舎暮らしの魅力を発信し、自身の目指す理想の生活を楽しみながら実践している点が評価された。

ライフスタイル賞

う え た と も こ
上 田 知 子

こうちけん ゆすはらちょう
高知県 梶原町



講 評

農家に嫁ぎ、典型的な中山間地域の農林業複合経営を行っていたが、平成11年頃から、「農林産物の価格低迷」や「連作障害による作物の収量低下」等により所得が低下。経営を見直す中で、「我が家の農業・農村生活」と「地域資源」を活用した新たな収入を得る方法として、平成12年に高知県初の農家民宿「いちょうの樹」を開業。家族3世代で役割分担し、「田舎を持たない人の田舎になりたい」をモットーに、「農山村のありのままの暮らし」「家族ぐるみの温かいもてなし」を提供している。

人間の魅力、一次産業の魅力、新鮮な食材の魅力の提供が多くのリピーターを惹きつけている。平成14年に結成した「グリーン・ツーリズムゆすはら」では会長を務め、農家民宿経営の実績とリーダーシップを求められ、町所有の民家で農家レストラン「くさぶき」を開業し、年間180万円の需要を生み出すなどの経営手腕を発揮。平成18年に設立した「こうち体験ツーリズムネットワーク」の会長に就任するなど、高知県内のグリーン・ツーリズムのリーダー的存在である点が評価された。

ライフスタイル賞

なかじま
中嶋

けんぞう
健造

こうちけん ちょう
高知県 いの町



講評

12年前に経営コンサル会社を退社し帰郷。元来自然好きで、平成13年に森林ボランティアに参加したところから本格的に活動を開始。地域づくり集団「194（いくよ）元気塾」の設立をきっかけに、グリーン・ツーリズムに着目し、住民、行政、NPOの協働体制を確立しつつ、森林・里山ボランティア活動を展開。本格的な林業体験と森林保全の場にするため、作業道の設置から製材・木工まで一体的に活動が出来るまでの体制を行政と共に整備。地場産品と交換できる森林証券（モリ券）をボランティア参加者に発行し、地域経済に役立つ仕組みを作っている。無形民俗文化財の「焼畑」を復活や、耕作放棄棚田で米作りを行うなど、「棚田で米を作り、山で木を切り、たまに田を焼き、山を焼き、猪の肉を喰い、濁酒を飲みながら、山村の将来を考え、動く」を理想のライフスタイルとし、自身の経験と人脈を活かし地球環境や地域経済まで幅広い視野を持って、エネルギッシュに活動している点が評価された。

ライフスタイル賞

た な か ゆ き お
田 中 幸 雄

おきなわけん よみたんそん
沖縄県 読谷村



講 評

沖縄の島々の雄大な自然と海の美しさに魅了され、平成6年に東京から移住。旅行では気が付かなかった海岸のゴミを何とかしたいと仲間と清掃活動を開始。4年間の清掃経験の中で、1～2週間もすると元のゴミの山となる現状を改善するには、美化に対する広報と環境教育が重要と考え、平成12年にNPO法人を設立。これまでに148回の清掃活動を行い、参加人数は3,000人を超え、ファミリーを中心に260名を超える地域ボランティアが活動している。また地域の小・中・高等学校に、環境学習用CD-ROMの作成寄贈、映像等による環境教室（これまでに49校90回）開催、環境劇シナリオや環境紙芝居を制作し上演・資料公開などを行っている。地域の祭りや環境イベント等の実行委員を務めるなど、「今できることを、できる人が、できる時に、家族、プライベート、仕事優先で楽しみながら」をモットーに、楽しみながらも明確な目的を持って地道に活動している点が評価された。

オーライ!ニッポン大賞 審査委員

会長	川勝 平太	国際日本文化研究センター教授、オーライ!ニッポン会議副代表
	井上 和衛	全国グリーンツーリズム協議会会長（明治大学名誉教授）
	梅田 春実	(社)日本旅行業協会理事長
	岡島 成行	NPO法人自然体験活動推進協議会代表理事
	長岡 杏子	TBSアナウンサー
	平野 啓子	語り部、武蔵野大学非常勤講師、オーライ!ニッポン会議副代表
	松本 零士	(社)中央青少年団体連絡協議会会長
	村田 昭夫	毎日新聞社広告営業センター次長兼東京広告局第三広告部長
	元石 一雄	(財)社会経済生産性本部 常務理事

オーライ!ニッポン大賞 概要

● 趣 旨

都市と農山漁村の共生・対流に関する活動を行っており、交流の拡大、活性化に寄与した団体・個人や、都市と農山漁村双方の生活、文化を楽しむライフスタイルを実践している個人を表彰し、その活動を広くPRすることで農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの普及推進を図ることを目的としています。

● 表彰対象・審査基準

オーライ!ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった団体もしくは個人。

(1) 表彰の種類

内閣総理大臣賞（グランプリ）*下記「オーライ!ニッポン大賞」の中から1件グランプリを選定

オーライ!ニッポン大賞 6件以内

審査委員会長賞 数件

(2) 審査の基準

- ア 農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
- イ 地域の個性を生かした取り組みであること。
- ウ 農山漁村地域を活性化する効果があること。
- エ 都市側、農山漁村側双方の住民の参加を促進する取り組みであること。
- オ 長期的な取り組みの実績があること。
- カ 効果が持続して発現すると見込まれること。
- キ 他の地域における応用性に富んでいること。

ライフスタイル賞

1ターンの等により農山漁村において個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している個人。

(1) 表彰の種類

ライフスタイル賞 数件

(2) 審査の基準

- ア 農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルを実践していること。
- イ 個性的で魅力のある活動であること。
- ウ 新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
- エ 新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

〈主催〉 オーライ!ニッポン会議 農林水産省 (財)都市農山漁村交流活性化機構

〈後援〉 総務省 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 国土交通省 環境省

オーライ!ニッポン大賞 事務局

(財)都市農山漁村交流活性化機構

〒103-0028 中央区八重洲1-5-3 不二ビル 8階

TEL 03-3548-2711 FAX 03-3276-6771 ホームページ <http://www.kouryu.or.jp>

